

## 今月の畜産物市況

—牛枝肉・豚枝肉・鶏卵・食鶏—

### 多少は活気づくか

#### 牛枝肉

まったくいまが底値である。(大阪市場で昨年を15円下廻っている)これは需要がさほど多くないのに、出廻りが2割方も増加しているため、これは若令肥育の普及により、よい牛が出廻りかけたのと、子牛価格が安いことから繁殖農家が意欲を失い、親牛を売りに出しているためである。

4月上旬からは後楽シーズンにともない、少しづつ活気を取りもどし5、6月には反発も考えられるが、牛肉の荷動きはにぶいものである。

今後4月には輸入肉がさらに2千t程度到着して市場に出廻りも見込まれているから、5月中旬までは引き続き低迷し、5月下旬から6月にかけて、農繁期による入荷頭数の減り、豚肉価格回復見込みもあり、新年以来の下向き傾向に終止符が打たれるとの見通しが強い。

### 横バイか

#### 豚枝肉

年初めから急落を続けた豚枝肉用相場は、3月初旬ようやく保合いから中旬にかけてやや反発の気配をみせ、岡山食肉市場卸値でも規格中値キロ300円程度で保合っている。市場への肉豚の入荷は、大阪、岡山食肉市場とも旧正月前後の2月下旬から3月上旬にかけてかなり増加したが、その後再びやや減少をみている。この豚肉価格の値下りは、小売価格が卸値の値下りに伴わず、一般消費の不振と、加工メーカーの手当買いのないこと、3千t(約7万頭)に及ぶ保管輸入肉の圧迫感など悪材料が重なったため、今後の消費の回復は小売価格の値上り時期や、加工メーカーの手当買いが本格的に始まる6、7月頃との見方が強いようである。

今後の肉豚の入荷予想は、今年の夏以降の好況時

に生産された子豚の出荷も始まり、次第に増加することも考えられるが、大阪市場での最近の入荷も1日4~600頭程度と昨年をやや下廻っており、夏頃まではそれ程大きな増加はない模様である。したがって4月から5月の岡山での枝肉相場は、入荷の増減によって多少の上下はあっても、消費面での好材料がないため300円をやや下回る程度でほぼ横バイの推移が予想される。

### 持ち直すだろう

#### 鶏卵

2月下旬からマヨネーズ向け大口消費と、九州ものの入荷減から大阪市場は、2月下旬3月上旬平均がkg当り214円と予想をはるかに上回る高値となった。しかし3月中旬に入り、入荷増と末端消費の小売高値による伸びなやみなどから急速に下げ、3月16日には大阪市場1級品業者仕入値kg当り185円と、5日間で約30円安となった。

今年の鶏卵生産は昨年より10%前後の伸びが予想されているが、一方消費面もマヨネーズの大口に20%増が見込まれ、一般家庭の消費も全国的に順調の見通しで、全体として15%の消費増が見込まれている。

4月以降は産卵増から毎年3月より更に下げて底値になるが、この4月は170~180円(業者仕入れ値kg当り)程度で、昨年をやや上回る値をつけて5月に入るとみられる。またこの期は、後楽シーズン、入学期を迎えるわけであるから、一時的な高値も予想される。

なお、業界筋の一部ではマヨネーズ加工用手当買いの終わったあと、一般消費も振わない6月末から7月初め頃に再び値下げして、今年の最低値となるのではないかと見るむきもある。

岡山畜産便り 1964.04

強気で向う

## 食 鶏

あいかわらず出廻りが多い。売れゆきのほうはいくぶんよくなったが、そう期待するほどでもなかろう。

しかし、相場はすでに底値からぬけ出している。現在中ビナ中値 kg 当り 170 円と、しっかりしていて、1 月以降の安値ぶりからヒナの餌付けが減っており、4、5 月には入荷量がすくなくなると思われるので、暴騰はしなくても期待できる。

さらに 4、5 月は結婚、旅行のシーズンで、近頃は宴席にはかならずブロイラーが使われるようになってきた。今後オリンピック向け貯蔵用に、加工にと生産もピッチがあがろう。